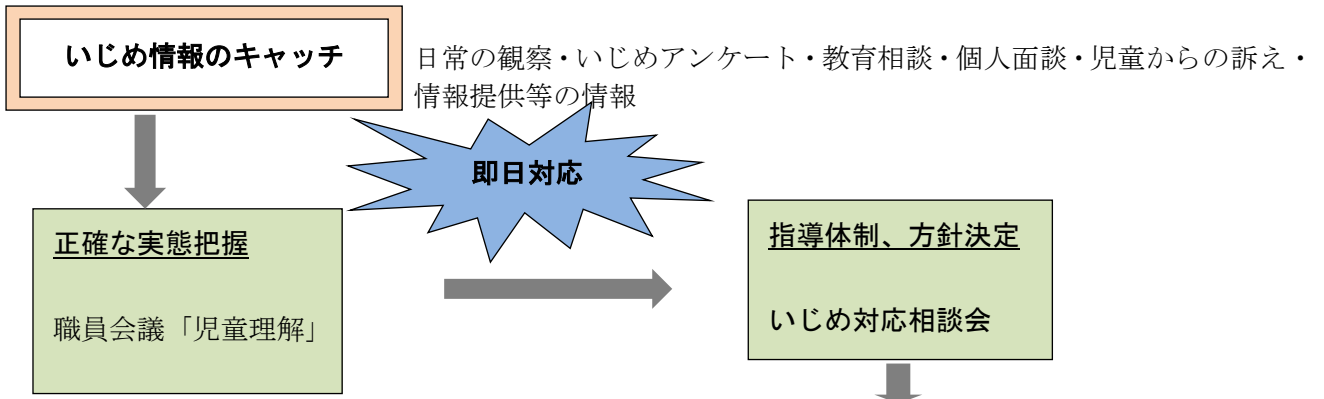


組織的対応



①報告の流れ

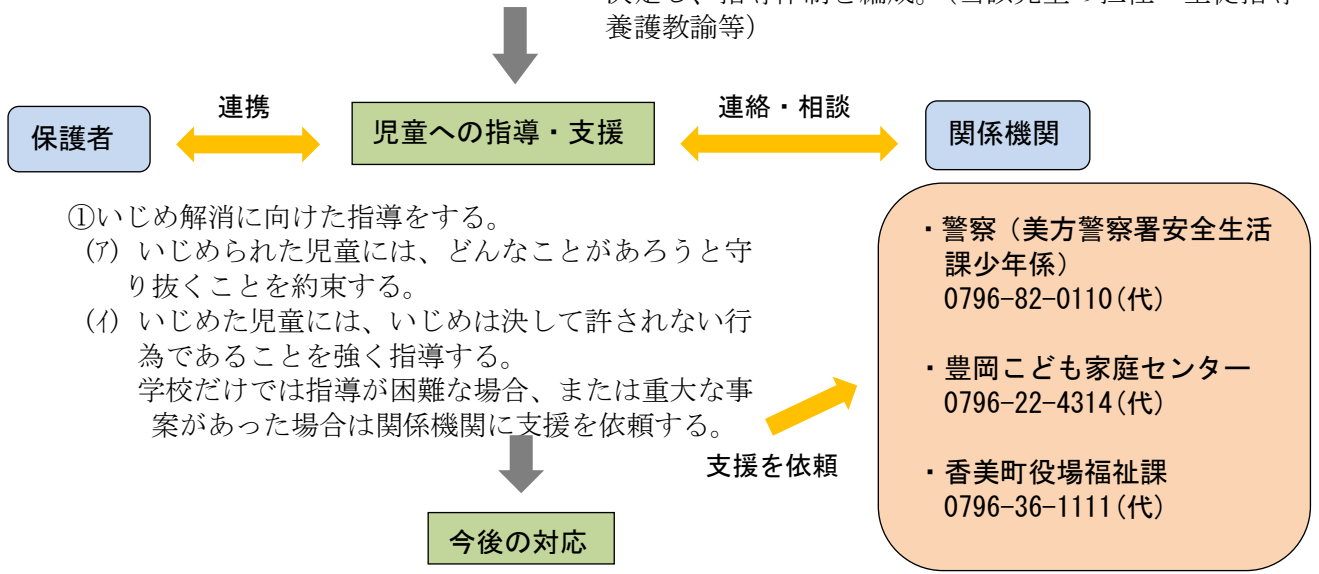
- 情報を得た教職員
- 当該児童の担任等
- 生徒指導担当・教頭
- 校長
- 町教育委員会

②保護者へは、事実確認をした後、連絡する。(その後は適宜連絡)

いじめ対応チームの招集・指揮（校長）

＜いじめ対応チームで緊急対策会議の開催＞

- ①情報を得た教職員から報告を受け、チーム内で共通理解。
- ②調査方針及び分担を決定。
- ③事案の状況から、事情を調査するメンバーを決定。
- ④2名以上の教員で当該児童について事情を確認し、事実関係を把握していじめ対応チームへ報告。
- ⑤報告を受けた後、いじめ対応チームは、会議で指導方針を決定し、指導体制を編成。(当該児童の担任・生徒指導・養護教諭等)



- ①いじめ解消に向けた指導をする。
 - (ア) いじめられた児童には、どんなことがあろうと守り抜くことを約束する。
 - (イ) いじめた児童には、いじめは決して許されない行為であることを強く指導する。学校だけでは指導が困難な場合、または重大な事案があった場合は関係機関に支援を依頼する。

- ② いじめ事案が解消されたとしても、経過観察を行い、事後も継続指導を行う。
- ②スクールカウンセラー等の活用も含め、心のケアをする。
- ③再発防止・未然防止活動は継続していく。

※生命又は身体の安全がおびやかされるような重大な事案が発生した場合

- ①速やかに町教育委員会や警察等の関係機関へ報告する。
- ②町教育委員会の支援のもと管理職が中心となり、学校全体で組織的に対応し、迅速に事案解決にあたる。
- ③事案によっては、当事者の同意を得た後、説明文書の配布や緊急保護者会を実施する。
- ④マスコミ対応は情報の窓口を一本化する。

※ネット上でのいじめへの対応

- ネットを利用したいじめは、その匿名性のために罪悪感が低くなりがちである。相手の気持ちが変わりにくく、いじめがエスカレートしやすいうえに、広範囲に広がる危険性がある。
- (ア) 児童に、ネットに関する正しい知識を提供するとともに、個別面談等では情報を積極的に収集する。
 - (イ) 誹謗中傷を書き込むことは「いじめ」にもつながり、悪質なものは警察に検挙されること等を生徒に認識させ、情報モラルの指導を折に触れてこまめに行う。